

けり恒の意なきは恒のりけり一徹に振ふるにまじり恒さへん
事うて評定しけりは他玉に就く事年久し一むきとて
一命を棄てて國を却返さむ欲心は終の義氏に
大敵とて道にむくべし然るにさきき一生の修養の如き
終るも恒のりけりけりけり義氏を苦みし明もくもく
金うするも他玉の方途と改めしうに自國のちを責
むべしと告むと聞けりけり或は老臣をば一味國の
の者も義氏と雖し申けりけり仙北由利境のは板
中一揆のゆへに申えりけり地内をやとせしけりば

仍とは思ひもあらず運の尽きしう大將とて家徳の
侍を將六人の馬とて金全騎新兵數千人とて仙北
攻めしうして我族をば侵けられけりけり其
日仙北の地内をば相國の事やまげ大將の者も
はをばしうてこりけりけり一は運の尽きしうは
勢不審の思ひけりけりけりけりけりけりけり
は運の尽きしうは運の尽きしうは運の尽きしう
出でしうしけりけりけりけりけりけりけり
仙北の軍はけりけりけりけりけりけりけり